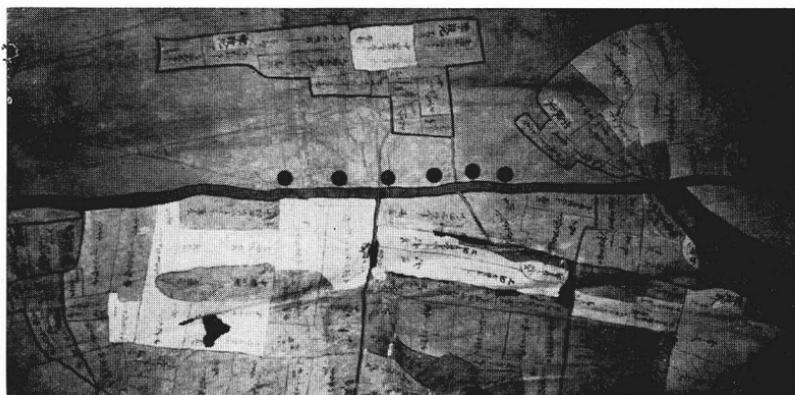


中荒井村船橋道と境界壇

桜の古木があつて、とても慶長頃の築造ともみられないから、古墳であろうと推定した人も多かつた。

しかし並びが一線で、下米塚村の区長保存の古地図をみると、下米塚と二日町の境界に一直線に並び、これがそのまま旧橋爪組と中荒井組の境界にも当たっていたから、これは境界壇として築造したものとみるのがよいと思う。これを裏付けするような古地図に張りつけた、次のような文

メートルに高さ一・八メートル、東の馬頭観音の塔のあるものが、径六メートルに高さ二メートル、それ等を含めて大きなものが四つ、小さいものが四つ、もと八つ壇ともいったと伝えるが、その痕跡はみられる。これより北に並んで、完全な洪水除けに築造した土堤の跡が、断続的に残っているから、単にだんくらと呼ぶこの形からも、防塞土堤の痕跡でないことはわかる。もとこれらの壇には山



下米塚新田・二日町の境界と四つ壇および旧船橋街道の古村図